

第3回 MDPRO医療機器産業研究会 開催報告

医療機器政策調査研究所 主任研究員 浅岡 延好

1. はじめに

医機連医療機器政策調査研究所(MDPRO)では、2024年度より「MDPRO医療機器産業研究会」(以下、研究会)を開催しております。今年度はMDPROリサーチ公開のタイミングに合わせ、9月¹⁾、11月、2月の年3回の開催としています。

今回は、2025年11月に開催した第3回研究会についてご報告いたします。



会場風景

2. 開催概要

【日時】

2025年11月17日(月) 15:00 ~ 17:00

【開催場所】

医機連会議室 room Aおよびオンライン併用

【研究会テーマ】

医療機器スタートアップを取り巻く状況

【演題名・演者】

(1) 米国・グローバル展開に向けて

MDPRO 主任研究員 木下 裕美子

(2) スタートアップ企業(①学生発②医師発)とMEDISOサポートのリアル

① 株式会社ヒートショックゼロ 代表取締役社長 泉本 悠 先生

② 株式会社CaTe 代表取締役CEO、藤田医科大学循環器内科 助教、
MEDISOサポーター 寺嶋 一裕 先生

【参加者】

医機連会員団体所属企業関係者33名、医機連事務局5名、MDPRO関係者3名 計41名。

開催後アンケート回答結果を基に参加者の職種の割合を図1に示します。



図1 参加者の職種の割合

【出所】参加者アンケート回答結果(回答数：34件、回答率：83%)を基に筆者作成

3. 講演概要

冒頭に、MDPROの久芳所長から研究会の趣旨の説明がありました。その後、木下主任研究員より、医療機器スタートアップにおける韓国・イスラエルの事例や、米国展開を前提とした出口戦略、共創などに関する講演がありました。それに続いて、泉本先生および寺嶋先生から、自ら医療機器スタートアップを立ち上げられた経緯、目的、サポート状況などについてご講演を頂きました。そして最後に、3名の演者と参加者との意見交換が行われました。以下、3名の講演概要をご紹介します。

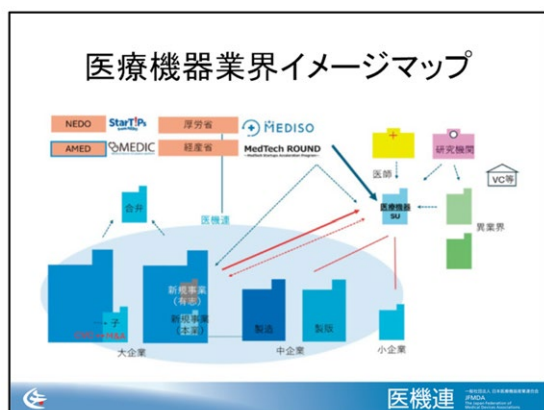
3.1. 木下主任研究員 発表

「医療機器スタートアップを取り巻く状況と米国グローバル展開に向けた考察」(医機連ジャーナル第131号にて公開済)²⁾などを基にしたスライド資料と共に発表が行われました。

最初に医療機器スタートアップが米国市場へ展開するメリットについて説明がありました。そして、その米国への展開で成果を収めている韓国およびイスラエルの医療機器スタートアップの特徴や、米国展開を前提とする出口戦略についての具体的な話がありました。

また既存企業のスタートアップとの共創による事業展開パターンは2つのタイプあるという、演者の独自の考察について説明がありました。一つ目のタイプは既存企業のコアを更に共創で強化する「バームクーヘン」、もう一つは既存企業が共創を機に新事業を立ち上げる「お月見団子」にそれぞれ例えられるという考察でした。

最後に、演者の考案した日本の医療機器業界のイメージマップなどを示しつつ、今後の日本の医療機器産業の進むべき方向について、参加者に対し演者から課題提起が行われました。



発表スライドの一枚



木下 主任研究員

3.2. 泉本先生ご講演

お身内をヒートショックで亡くされたご経験から、泉本先生は大学在学中にヒートショックを予防するデバイスのスタートアップを立ち上げられました。

「従来、ヒートショックの予防対策は、医療でも、介護でも、住宅でも、福祉でも『完全には引き受けきれない』領域、すなわち『担当不在のグレーゾーン』である」と泉本先生は分析されたとのことでした。これより、泉本先生のヒートショックで亡くなる事故をなくしたいという強い思いは、ビジネスとしても成立すると考えられたそうです。また、構造・機能を極力単純化して開発費用を抑える、ハードウェアの開発は経験豊富な外注にする、などの工夫をしつつ限られた資源で開発を進められたとのことでした。

このような取組によって、温度変化や体調の異変に早く気づき、無理のない行動や入浴を促す、充電や通信接続不要で誰でも簡単に使える、ウェアラブルデバイスの普及を目指されているとのことでした。



泉本 先生

3.3. 寺嶋先生ご講演

心疾患患者に対し有効な「運動を中心とした治療」を、自宅で毎日行えるようにしたい、という医師としての強い思いから、寺嶋先生はスタートアップを立ち上げられました。その「運動を中心とした治療」には、再入院率および心臓病による死亡率を共に減らす効果があり、その費用対効果は保険適用されたことより証明済みである旨の説明がありました。一方、現実には、通院困難や対応できる医療機関が少ないことから、その治療を受けられる頻度・機会が限られてしまう課題がありました。



寺嶋 先生

寺嶋先生はその課題をITで解決できるのではないかと考えられました。その結果、運動療法のみならず、バイタルデータ管理や食事管理、医療者との指導機能など、「心臓リハビリの構成要素」のすべてを、患者が自宅でできる医療システムを開発されました。

今後は、運動による治療の効果が証明された高血圧、腰痛、認知症などの、すべての疾患に対しても、同様の医療システムを開発されたいとのことでした。

4. おわりに

参加者の皆様からは、多くのコメントを頂きました。以下にその一部をご紹介します。

- ・ 医療機器開発スタートアップの難しさと努力を知り、これらのサポートのあり方について考える機会となった。
- ・ 主任研究員の「どうする日本？」の問いかけを自分事として受け止めた。
- ・ 立場の違う研究員、ゲストの先生方の様々な視点からの医療機器業界に関する課題や提言があり、大変勉強になった。

頂いたご意見は、今後の研究会開催などMDPRO活動の参考とさせていただきます。

最後になりましたが、泉本先生、寺嶋先生、ご参加頂いた皆様ならびにご協力頂いた関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。なお、次回の第4回研究会は、2月中旬に医機連会員の皆様向けに開催する予定です。MDPROでは、今後も医療機器産業発展の一助となる様、活動して参りますので、引き続き宜しくお願い致します。

【参考資料、文献】(URLは2025年12月9日時点)

- 1) 林 奈央：第2回 MDPRO医療機器産業研究会 開催報告. 医機連ジャーナル, 131 : 56-8, 2025.
<https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2025/10/journal131%E2%98%85Publish.pdf>
- 2) 木下 裕美子：医療機器スタートアップを取り巻く状況と米国・グローバル展開に向けた考察. 医機連ジャーナル, 131 : 31-53, 2025.
<https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2025/10/journal131%E2%98%85Publish.pdf>